令和８年度第１回放送番組審議会

■開催日時
令和８年８月21日（金）14:00～16:00

■開催場所
Web会議

■出席委員（8名）

放送番組審議委員会会長	景山　陽一	
放送番組審議委員	服部　洋之	
	栗原　エミル	
	三富　章恵	
	伊藤　かすみ	
	竹内　千春	
	菅原　潤	
	中山　愛	

（順不同・敬称略）

■事務局出席者

代表取締役社長	末廣　健二
常務取締役兼クリエイト本部　本部長	飯塚　雅子
クリエイト本部 ﾏﾈｰｼﾞｬｰ	斉藤　洋樹
クリエイト本部 ﾘｰﾀﾞｰ	尾形　祐三
(株)TEAM CNA CREATION ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾘｰﾀﾞｰ	中里　仁
(株)TEAM CNA CREATION	工藤　和靖
クリエイト本部	後藤　寧音

■議事　　事務局からの報告事項/自主放送番組についてのご意見

■視聴課題番組

番　組　名
①　秋田犬写真展～犬が苦手な秋田犬カメラマンの記録～
②　イダマシ～残したい秋田の心～#9 移住者　加速する人口減少の秋田で考える課題と価値

■ご意見まとめ

①タイトルにある「犬が苦手なカメラマン」の背景や心理的な変化の描写が弱く、感情移入しづらかった点や、特定の秋田犬の演出で誤解を招く表現があった点が指摘された。一方で、動画全盛の時代に「写真」に着目した点には評価の声が上がった。

②15分という尺の中で、人口減少に対する前向きなメッセージが評価された一方、タイトルにある「残したいもの」に対するより明確な答えの提示が求められた。

■放送番組審議委員からのご意見(詳細)

①秋田犬写真展～犬が苦手な秋田犬カメラマンの記録～

(番組内容に対して)

・タイトルに「犬が苦手な」と掲げるのであれば、カメラマン自身にもっと焦点を当てるべきだった。撮影に至った背景や最終的な心境の変化が見えず、感情移入がしにくかった。

・秋田犬「陸奥」の紹介シーンにおいて、存命であるにもかかわらず、まるで死亡したかのような誤解を与える描写になっていた。

・動画コンテンツが主流の現代において、あえて「写真」にスポットを当てたアプローチは新鮮で面白かった。

・撮影の裏側を見せるメイキング動画などを盛り込むと、さらに見ごたえが増すのではないか。

(番組構成/制作に対して)

・モザイク処理の精度が甘く、酷似したカットが続いていた。

・ナレーションの解説内容と、映し出されている映像が一致していない場面が見受けられた。

②イダマシ～残したい秋田の心～#9 移住者　加速する人口減少の秋田で考える課題と価値

(番組内容に対して)

・15分というコンパクトな放送枠の中で要素がすっきりと整理されており、非常に視聴しやすかった。

・AI生成動画を演出に取り入れた試みが効果的であった。

・課題が多いとされる秋田県において、将来に希望が持てる前向きな内容になっていた。

・娘をきっかけに母親が秋田へ戻る描写が深く胸に響いた。「人口が少ないからこそ見つけてもらえる」という言葉の通り、見方を変えれば地域課題も大きな魅力に反転するのだと実感させられた。

・番組タイトルにある「残したい」という言葉に対し、何を残すべきなのかという明確で分かりやすい答え（アンサー）を示してほしかった。

(番組構成/制作に対して)

・インタビュー映像の画角が斜めになっており、違和感を覚えた。

・子どもの誕生会のシーンにおいて、音声が聞き取りづらい部分があった。